

タイヤ・チューブ取扱説明書

交換前にサイズ確認を！

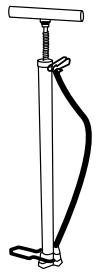
カフムラサイクル

＜準備する道具＞

- ・ポンプ（空気入れ）
- ・タイヤレバー（2～3本）
- ・スパナ（10mm）

※タイヤレバーは市販されています。

作業時には、軍手を着用してください。
バリ等により怪我をする恐れがあります。



取り外し方

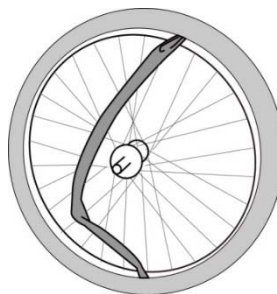
1. バルブキャップを取り、リムナットをスパナ（10mm）で緩めます。トップナットを手でゆっくり緩めていき、空気を抜きます。※トップナットを急に緩めると空気が勢いよく抜け、虫ゴムを紛失する場合があります。※12インチのL字型バルブではナットを使用しません。



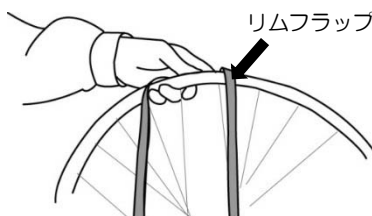
2. バルブを押し込んで、バルブロ付近からタイヤレバーを差し込み、リムの外側にタイヤレバーをひっかけます。タイヤレバーを差し込む際に、リムの継ぎ目から15cm以上離れたところに差し込みましょう。



3. まず、リム外側のタイヤのフチをリムから外します。次にバルブを押し込んでチューブのみを引っ張ります。その後リム内側のタイヤのフチを外してください。取り外したチューブに、穴や裂け目がないか確認してください。バルブを水の張った桶につけると気泡が出るか否かで、穴が空いているか確認しやすくなります。

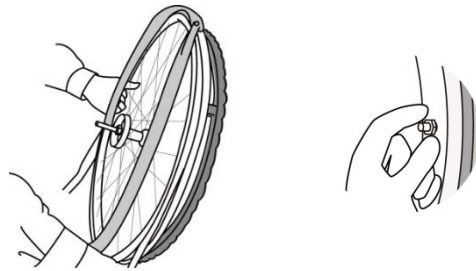


4. リムフラップをリムから外し、破損等がないか確認してください。異常がなければ取付けてください。※バルブロの部分は長年使用していると破損したりします。リムフラップはスポークの凸部からチューブを守る役目をしているのでしっかりと確認してください。

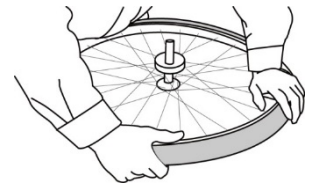


取り付け方

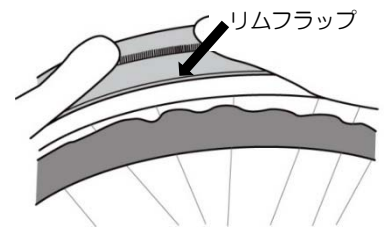
1. リムにチューブのバルブ部分のみ入れ、バルブ口にバルブを差し込みます。バルブにリムナットを仮止めしておくことでチューブがズレずに作業を進めることができます。※チューブにねじれがないか確認してください。



2. チューブに空気を少し入れ、ふくらませておきます。タイヤのフチをリムにひっかけていきます。その後、もう片側のフチをバルブロ付近より入れていきます。※チューブをはさみこまないように気をつけてください。リムの継ぎ目にもご注意ください。



3. 4～5回に分けて空気を入れ、タイヤを膨らませます。そのとき、タイヤのリムラインとリムの外周がそろっているか確認しましょう。※リムラインとリムが平行でない場所ではチューブが詰まっている可能性が高いので、挟み込みの確認を必ず行い、必ずかみ込みをなくしてください。



4. [最適空気圧]を参考にし、空気を入れます。

[最適空気圧]

- ・22×1.3/8 460KPa（減圧弁圧）
- ・20×1.3/8 490 KPa（減圧弁圧）
- ・16×1.50 360KPa（減圧弁圧）

タイヤ・チューブ使用上のご注意

1. タイヤ組付け時の注意

- (1) チューブ・フラップ及びリムはタイヤに適合するサイズを使用してください。
- (2) タイヤのリム組みや取り外しは、ドライバー等の角張ったものを使用するとタイヤ・チューブを傷つけたりするため、必ず専用のタイヤレバーを使用してください。
- (3) フラップはリムのセンターにセットし、スポークの頭を完全にカバーするようにしてください。
- (4) タイヤはリム組み前に内側を点検し、異物等がないことを確認してください。
- (5) リム組み後、タイヤとリムの間にチューブを噛み込んでいないか確認してください。
- (6) タイヤに空気を入れる場合は、徐々に標準空気圧まで入れてください。
- (7) リム組み後は標準空気圧の状態がタイヤが均一にセットされているか、リムとリムラインの間隔により確認してください。
- (8) リム組み時は、油やワックス等は使用しないでください。

2. 走行前点検時の注意

- (1) タイヤの空気圧はタイヤに表示された標準空気圧に充填してください。
 - ※ 仏式及び米式バルブを使用しているタイヤは、タイヤゲージで測定してください。
 - ※ 英式バルブを使用しているタイヤはタイヤゲージで測定できませんので、目安として、タイヤを手で押してもやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。
- (2) タイヤに釘やガラス片、その他の突起物が刺さっていないか、油が付着していないか確認してください。異物を発見したときは全て取り除いてください。

3. 走行時の注意

- (1) 段差や突起物への乗り上げは、パンクの発生やタイヤを傷つける恐れがありますので避けてください。
- (2) 急ブレーキは偏磨耗につながりますので、非常時以外は避けてください。
- (3) 積雪路及び凍結路での走行は事故につながりますので避けてください。
- (4) パンクした場合は事故や転倒の原因になりますので乗車は避けてください。

4. 使用限度又は交換時の注意

次のような状態になったタイヤ・チューブは事故の原因につながる恐れがありますので、使用しないでください。

- (1) タイヤ
 - ・ 接地部の全周、全幅にわたってパターンの溝の深さが一部でもなくなったもの。
 - ・ パターンの溝の深さがあっても、極端な偏磨耗、段付き磨耗等異常な磨耗状態があるもの。
 - ・ 布層に達する外傷及び亀裂の発生したもの。
糸切れ、剥離及びビード部に損傷を起こしているもの。
- (2) チューブ
 - ・ 傷、割れ、しわ等のあるもの。
 - ・ バルブに変形、亀裂、サビのあるもの。

5. 保管時の注意

- (1) 直射日光を避け、紙、軟質プラスチック等で包装してください。
- (2) 雨又は水のかかる所を避けてください。
- (3) ストープ、その他の熱源に接近させないようにしてください。
- (4) 油類の多いところに接近させないようにしてください。
- (5) 電気火花の出る装置等、オゾンの発生しやすい所は避けてください。
- (6) 亀裂の原因になりますので、タイヤにシリコン系のワックス等を塗らないでください。

6. タイヤサイズの見方

- (1) インチ表示サイズ

<分数表示>

(例) 26 X 1-3/8

└───┬───┘
└───┬───┘
タイヤ幅の呼び (インチ)
タイヤ外径の呼び (インチ)

<小数表示>

(例) 26 X 2.125

└───┬───┘
└───┬───┘
タイヤ幅の呼び (インチ)
タイヤ外径の呼び (インチ)

- (2) フランスミリ表示サイズ

(例) 700 X 25 C

└───┬───┘
└───┬───┘
└───┬───┘
対応リム記号
タイヤ幅の呼び (mm)
タイヤ外径の呼び (mm)

- (3) ISO ミリ表示サイズ

(例) 37 - 630

└───┬───┘
└───┬───┘
リム径の呼び (mm)
タイヤ幅の呼び (mm)